

先週の礼拝メッセージ(2022年2月20日) ベン牧師

「愛に根ざして」 エフェソの信徒への手紙 4:14-15

先週は、牧師などの教会の働き人が何のためにいるのかというお話をしました。それは、クリスチャンを霊的に整え、教会を建て上げていくためです。

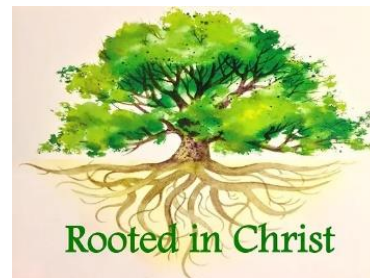
同時に、13節に「ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり」とあるように、教会に集う人たちが一つの信仰、知識を持つために、牧師には、祈り導かれ学んだことを正しく伝え、教える責務があるのです。一言で言うなら、牧師は霊的なことや聖書の知識を教え、教会の皆さんは聖書を正しく学ぶ、これが教会を建て上げていくために必要不可欠なのです。

このようにして、信仰と知識による一致が与えられたクリスチャンは教会は、未熟な者ではなくなるのです。誤りに導こうとする力、すなわち異端と呼ばれる人たちが来ても、惑わされず、違いに気づくのです。昔、銀行員の友人に聞いたことありますが、銀行員は本物のお札に毎日触れることによって、偽物が紛れ込んだ時、その違いに瞬時に気づくそうです。

カルト(異端)は実際、大きな問題として日本の教会を揺るがしていますが、本物を知ることなしにカルト対策をしても、それは本末転倒です。パウロ以前にも、パウロの時代にも、それ以後も現代も、人々を誤りに導こうとする悪賢い人間はいます。これからも後を絶たないでしょう。最強の対策は、私たちが聖書の言葉にどれだけ触れているかということ以外にはないのです。そして、成熟した者となり、揺れ動かされることのない信仰へと成長するのです。

「愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。」(15節)

時折、教会のビジョンを「〇〇人教会となること」と人数を掲げるのを聞くことがあります。率直に申し上げて、教



会の掲げるべきビジョンは数であってはなりません。聖書のどこにも人数の多い教会になりなさいとは書いていません。人数はあくまで結果にしか過ぎないのです。私たちの掲げるべきは、どのようにミニストリーを一致して進め、キリストに似た者になるかです。そのために大切なことが15節には記されています。

教会はミニストリーを進めるために真理を語ります。しかし、気をつけなければ時として、真理を大上段に振りかざして人を傷つけることがあります。そのために、愛に根ざして真理を語りなさいと聖書は言うのです。

正しいことを言う時、それが正しければ正しいほど、愛をもって口を開かねばなりません。別の箇所にも「知恵をつくして互に教えまた訓戒し」(コロサイ3:16 口語訳)とあります。教える時もそうですが、戒める時となるとなれば知恵を尽くして言わなければ、相手は心を閉ざしてしまいます。

教会は常に真理を語らねばなりません。なぜなら、イエス様こそ真理そのものなのですから。そこは決して曲げたり、譲歩してはなりません。しかし、どんな場合にも、「愛に根ざしているか」「知恵を尽くしているか」が最初に来なければ、せつかくの真理が相手に伝わらないのです。

私たちは真理を語る者であるからこそ、時には戒める必要が出てくるでしょう。そういう時は、臆さず語るべきです。しかし、私たちは祈りつつ、愛に根ざし、知恵を尽くして語ることを忘れてはなりません。なぜなら、イエス様が私たちにために、ご自分のいのちまで捨ててください、私たちはその愛を受けている者だからです。

信仰と知識の一致をもって、どんな時にもどんな人にも愛に根ざして真理を大胆に語り、キリストに向かって成長していく、それが教会の本来の姿です。

神様はそのような教会を祝福してください、その結果、新しく救われる人を加えてくださるのです。私たちは、神様に委ねながら、主に喜ばれる教会として、共に成長していきたいと心から願います。